



No.377 令和元年11月22日

おおたこうれん

発行所
東京都大田区南蒲田1-20-20
電話(3737)0797・FAX(3737)0799
一般社団法人大田工業連合会
発行人会長舟久保利明
E-mail: office@ootakoren.com
ホームページ:<http://www.ootakoren.com/>
印刷所
東京都大田区下丸子2-24-26
電話(3758)7788
光写真印刷株式会社



自社の製品を見せながら自社をアピールする青年部の企業



当会の舟久保利明会長も当日の様子を視察



佐々木哲校長



松島秀仁専務取締役

当会の青年部連絡協議会が主催する「マッチングセッション OTA 2019」が、9月27日に大田区産業プラザP.i.Oで行われた。初開催となるこの取り組みは、若手人材の発掘を念頭に青年部の会員企業と都立六郷工科高等学校の生徒とのマッチングを図る目的で企画。少子化で多くの企業が人材獲得に課題を抱えている一方、自校のお膝元である大田区のものづくり企業と生徒との接点を作りたいという高校側からの要望もあり、両者のニーズが合致して実現に至った。

製作所、山田製作所、泰信製作所、日新電気、第二金属工業、富士テクノマシン、松島商工、渡辺精機、新妻精機、上田製作所、エース、西居製作所、松浦製作所、昭和製作所、三陽機械製作所、トキワ精機、平川製作所、磐梯工業、関鉄工所、ムソー工業の計21社が出展。プロダクト工学科、システム工学科など5つの学科を擁する六郷工科高校からは約330名の生徒が参加し、午前は2年生を中心、午後は1年生を中心の2部に分けて行われた。

ものづくりがどんな経営者や技術者たちによつて成り立つてゐるかを知つて帰つて欲しい」と呼び掛けた上で、企業関係者には「今の中高生が何を考えていて、企業にどういうことを求めてい るかということを、ぜひこの機会に引き出して欲しい」とリクエスト。その上で「お互いの理解を深めて、本校の教育内容も大田区の企業が求めるものに変えていきたい」と意欲を語つた。

といえるような状況の中、話す側から積極的に生徒の発言を促してみたり、「頼れるお兄さん」的な口調で親近感が沸くように話してみたり、座談会形式で和やかな雰囲気を作つてみたりと、どの企業もそれぞれの工夫が目立つた。また、プレゼンの中身も純粋な企業紹介ではなく、「どんな仕事をしたいのか」「自分にはどういう仕事が合っているのか」といった職業感的な話を織り交ぜたり、「10代・20代の若手社員がどれだけ活躍しているのか」といった生徒にも身近なエタを盛り込むなど、生徒たちでも理解しやすく、興味を引くような心がけが見られた。

六郷工科高校では既に9月中旬から3年生の就職試験がスタート。2年生もここから徐々

午前・午後合せて全12セッションを完投し
た青年部の面々は、みな揃って声が枯れるほど
の奮闘ぶり。若い人の熱気の中で熱く語る彼
らの姿は、誰もがいつもより10歳くらい若々し
く見えた。全員が一日のエネルギーを使い果た
した様子だったが、その表情には確かに充実感
が浮かんでいた。ここで生まれた縁から実際に
大田区で活躍する工業人が生まれるかは未来に
なつてみなければ分からぬ。ただ、地元高校
から地元のものづくり企業へ人材供給の流れを
強めるきっかけ作りになつたことは間違ひない。
第1回は大成功の手応えを掴んだだけに、次
回以降の開催にも期待したい。

午後の部の終わりには、青年部で主導的な役割を担つた松島商工の松島秀仁専務取締役が挨拶。「本当に手探りの状態でスタートした企画だったが、午前の部、午後の部とどちらも盛況に終わつてホッとしている」と本音を述べて安堵の表情を見せた上で、「この機会から何か糧になるものを持ち帰つて、今後の学生生活を有意義なものにしてほしい」と未来の工業人たちは一丸を送つた。



聞く側も話す側も真剣



プレゼンにも各社の工夫が



21 社の詳しい資料も配布



ドーナツで“もぐもぐタイム”

「夏のロボット作り教室」開催



PiO1 階の大展示ホールに 120 組の親子が来場



親子で協力してロボット作り

サポーターの芝浦工大生も大活躍

8月24日・25日の二日間、「親子で楽しむロボット作り教室」が大田区産業プラザPiOで行われた。当会と区が共催するこのイベントは、芝浦工業大学地域連携・生涯学習センターの協力を受け、区内に在住・在学の小学1年生から4年生を対象に毎年この時期に行っている企画。今年も多数の応募の中から抽選で選ばれた120組の親子が参加した。

2日間にわたるプログラムは、初日にロボット製作、2日目は芝浦工大・長谷川浩志教授による講演会と競技大会、デザインコンテストという盛りだくさんの内容。芝浦工大からは学部生と附属高校の生徒が15名以上が参加して親子のサポート役を担った。親子が作るのは「ビートル」という四足歩行ロボット。約150個の部品からなるツインモーター式のロボットで、ナイロンナットやタッピングネジなど

工作中は各列にサポーターの芝浦工大生を配置。常にどこかでヘルプの手が上がる中、一人で何組ものサポートを行う学生たちは皆揃って大忙しの状況だったが、児童に教えるという経験は、彼らにとっても学びにつながる機会になつただろう。お昼前に組み上がる子もいるが、テストで床を走らせてみるとしつかり進まないということもしばしば。このあたりからは、焦つて早く作るよりも不具合ないよう正しく組み立てるのが大事ということを学んだに違いない。



2日間で一番の熱気となった障害物競走の決勝戦



表彰を行った西川事務局長

自慢の一台を見せ合う子供

競技大会のメイン種目は障害物競走だ。予選ブロックは全体を8組に分けた総当たり戦。幾つかの課題が設置された障害物コースでタイムを競う1対1の対決で、各ブロックの成績上位者が勝ち上がり制の決勝トーナメントに進出できる。保護者が見守る中、予選から一戦一戦がまさに真剣勝負、ガツツボーズあり、喜びの笑顔あり、歓声ありといふ熱戦の連続。時に負けた悔しさで泣いてしまう子もあるが、そこも審判の学生たちの優しい声かけで元気を取り戻す。競技中に故障してしまう場合も地域連携・生涯学習センターのベテラン技術者が修理コーナーに待機。万全のサポートで大会を盛り上げていた。

決勝トーナメントでは120組の頂点を決める戦いに参加者みんなの熱い視線が集中。特に準決勝以上はコースの周りを子供たちが取り囲むような状況で、「がんばれ!」の大声援の中で優勝者を決定した。

一方で、惜しくも予選で敗れた子供たちは徒競走競技にもチャレンジ。純粋なスピードを競う、こちらの競技も大いに盛り上がった。

森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田 勇	技術部グループリーダー	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
川口 三奈	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
福田 弘	技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
松本 順一	主任技師	日本電機(株)	蒲田工業協会
岩崎 荒井	参事	日本電機(株)	蒲田工業協会
武藤 秀明	改修チームリーダー	日本電機(株)	蒲田工業協会
川口 宏美	企画	日本電機(株)	蒲田工業協会
森田 秀和	技術部次長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
木内 祐史	営業第一課 課長	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
大橋 明美	名古屋支店課長代理	(株)三桂製作所	蒲田工業協会
石田			



数々の著書がある玄田教授



貴重な話に耳を傾ける参加者たち

10年前から「希望学」の研究に取り組み、希望と社会との繋がりなどを調査してきた玄田氏。また講義が行われた。

本年度1回目の経営・マネジメントセミナーが10月3日に大田区産業プラザPiOで開催された。今回は東京大学から玄田有史教授を講師に招き、「希望」をテーマにした講義が行われた。

一方、これまでの研究結果を踏まえて「失望を知らない人は希望を見ることができない」と指摘する。一方、これまでの研究結果を踏まえて「失望を知らない人は希望を見ることもできない」と玄田氏。その上で「希望に『棚から落とした餅』はない。希望は与えるものでも与えられるものでもなく自分で作り出すものだ」と説く。そして希望を作れる人の条件として、①通り着こうという気持ち、②具体的な目標、③小さな成功体験の積み重ね、④継続した行動という4点を挙げた。さらに、希望を生むには「強い絆だけでなく弱い絆も必要」と説明。強い絆は安心感や幸福感を与えてくれる方、希望を見出せる人は「普段あまり関わらない世界から偶然の気付きを見つけることが上手い」そうだ。

約2時間の熱弁は経営のヒントにもつながる内容だった。皆さんも「希望」について改めて自らの胸に問いかけてみては。

第1回 経営・マネジメント セミナー

～失望の中から本当の希望が見える～



ユーモアあふれる講義が行われた会場



稼働中のネジ工場を見学



大人気だったネジ作り体験



桂川精螺製作所の新工場

桂川精螺製作所では昨年新造されたばかりの新本社を見学。主に自動車関連のネジ部品を製造している同社は、旧本社が人気ドラマ番に訪れた。

もう一社の光写真印刷では、オフセット印刷や製本の現場を見学。普段、手にする本の紙面がどのようにデザインされるのか、そして、紙に刷られて本の形になっていくの

今年2回目の「産業のまち発見隊」が8月21日に開催された。区内在住・通学する小学4年生から6年生を対象として毎年夏に開催しているこの催し。今回も多数の応募から抽選で選ばれた22組の親子が参加した。この日のスケジュールは午前に工場見学、午後は日本工学院蒲田キャンパスでのづくり教室という流れ。朝9時前に大田区産業プラザPiOを出発した一行は、現地で2班に分かれ、桂川精螺製作所と光写真印刷の2社を順

のロケ地になった企業ということもあって、保護者も入場前から興味深そうな表情を浮かべる。ネジ加工の基礎や同社の高い生産力を支える塑性加工に関するレクチャーを会議室で聞き、稼働中の工場へ。真新しい工場は明るく清潔感にあふれた環境で、実際の製造品なども見ながら理解を深めることができた。さらに旧式の機械を使ってネジ造りも体験。ヘッダー、ローリングなど基本的な工程を自らの手を動かして学んだ。

第2回 「産業のまち発見隊」開催



ハンダ付けを初体験



多くの学生が教室をサポート



表示したい記号を作画

かという工程を実際の作業を見ながら学んだ。一連の説明の中には、揮発性有機化合物(VOC)の発生が少ない大豆インクの使用や廃棄紙のリサイクルなど、環境配慮に関する話もあり、現代に即した印刷工場の方を知ることができた。

午後のものづくり教室では、LCDの残像で文字や記号が表示できるバーサライタという装置を製作した。

実した時間にならうことだろう。充

事務局から 第4回



今月号では、小学生から高校生までの子供たちを対象にしたイベントを多く取り上げています。

夏と秋のロボット教室は、芝浦工業大学と都立産業技術高専に協力いただきながら10年以上継続している取り組みです。今回は秋のロボット教室でとても嬉しいエピソードがありました。学生アシスタントの中のお一人が、小学生の頃にこのイベントに参加された方だったのです。

どのイベントでも、参加者の方々に「大田のものづくりの将来を担う子どもたちのために」と述べてきましたが、実際にこうした取り組みをきっかけに新たな“希望”が生まれているのは大変臺ばしいことです。

また、青年部が今年新たに企画した「マッチングセッションOTA 2019」では、都立六郷工科高校から大勢の生徒に参加いただき、会場は若い方の熱気にあふれていました。後日行った報告会では、参加企業の方々から「プレゼンの仕方で学ぶことも多かった」「今後も続けていきたい」など積極的な意見が多く聞かれました。この取り組みは1年後、2年後の近い将来に成果が見込まれます。会員の皆様のご協力があつてこそその事業ですので、多くの実りがありますよう、引き続きご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

秋のロボットセミナー開催



技術高専の生徒がしっかりサポート



自分の力でロボットを作る

浅川准教授から説明を受けると、子供たちはさつそく持参した工具を手に持ち、工作をスタート。コロボ2は、2枚の有孔ボードにセンサーや電池ボックスを取り付けて二輪車を作るキット。保護者も見守る中、どの子も真剣な表情で、穏やかな雰囲気に包まれて作業は進んでいく。

初めのうちは自力で出来ても、工程が進むにつれて難しい局面に差し掛かる。早い子は2時間ほどで組み立て終えるが、電池を入れて動作確認をしてみると正しく動かないことも。そんな中で徐々にサポートする生徒の出番も増え、

区内に在住・在学の小学5年生から中学2年生を対象とした「秋のロボットセミナー」が、10月19日に都立産業技術高等専門学校で行われた。この催しは当会と区が共催している秋の恒例イベント。今年も多くの応募の中から抽選で選ばれた40名の小中学生が参加した。

この日は「KOROBO2(コロボ2)」という二輪駆動ロボットを作成。午前9時にスタートしたプログラムは、午前に本体の組立て、午後はプログラミングでの動



ライントレースなどの課題にトライ



今回作った KOROBO2

スに置き換え、浅川准教授からされた4つの課題に挑戦した。自分の作ったロボットが自在に動くというのは、子供たちにとってとても新鮮な体験だった模様で、どの子も自分の席とテストコースを何度も行き来しながら課題のクリアに頭をフル回転。

た」など様々な声が聞かれ、各自のづくりの楽しさを知る機会になつたようだ。

実は今回のサポート役の中に
は、過去にこのロボットセミナー
に参加したという生徒もあり、こ
うした地道な活動が新たなものづ
くり人材の発掘に寄与でできている
ことが実感できました。今年参加した

特撮DNA

平成ガメラの衝撃 と奇想の大映特撮

2019年 2020年 こうのとり
12月13日(金)ー1月26日(日) 日本工学院専門学校「ギャラリー 潮」

11:00開場～19:00閉館(最終入場18:30) ※土・日・祝日は10:00開場
※2019年12月31日(火)・2020年1月1日(水)・1月11日(土)は休館

一般 1,800円／大田区民割引 1,100円／65歳以上シニア割引 1,100円

- 一般社団法人 大田工業連合会は、「特撮のDNA」展に協力しています

Digitized by srujanika@gmail.com

大怪獣ガメラ 蒲田に上陸！